

卵巣過剰刺激症候群（OHSS）の注意

- * 卵巣過剰刺激症候群は、体外受精等のために、卵胞を発育させる注射の後、排卵させるための注射に切りかえて、数日から1週間くらいしてからおこることがあります。
- * 特に男性ホルモン（足や腕に毛が多い）が多い方、太っている方、家族に糖尿病の家系がある方、多嚢胞性卵巣（PCO）と言われた方はそうでない方に比べておこりやすい傾向があります。

1) 症状について

- ・ お腹がはる。
- ・ ウエストがきつくなる。
- ・ 下腹部が動くたびに痛い。
- ・ 尿の出が悪い。尿の量が少ない。
- ・ 胃が痛い。吐き気、気持ちが悪い。
- ・ 息苦しい時が、時々ある。

- * 卵巣の腫れがひどい場合は、お腹に水がたまって、入院して治療が必要になります。
- * 重症の場合は、胸水がたまって呼吸困難になることもあります。
- * この状態が続くと血液の濃縮が起こり、尿の出る量が少なくなり、血液がどろどろになって流れが悪く、固まりやすくなります。

2) 診察について

- ・ 上記の症状がある時は、早めに診察を受けて下さい。
- ・ 診察に来院出来ないときは、電話をして下さい。

3) 日常生活について

- ・ 排卵誘発剤の注射後1週間は安静を保って下さい。
- ・ ジョギングなどはしないで下さい。
- ・ 階段の昇降はゆっくりして下さい。
- ・ 振動を与える事は、なるべく避けてください。

（診療時間内） ウイメンズ・クリニック 大泉学園
TEL03-5935-1010